



—東地中海地域ニュース—

パレスチナ：間接和平交渉再開に向けた動き

(5月3日付現地各紙)

5月2日、駐 UAE パレスチナ大使館の開所式に出席したアッバース大統領は概要以下のよう  
に発言した。

1. アル・クドゥス紙

- (1) アラブ連盟は、境界線、エルサレム、難民をはじめとする最終的地位に係る交渉のため  
に、4カ月間以内の制限的タイムスケジュールでの交渉復帰を決定した。
- (2) イスラエルがいかなる入植活動も実施しないことについて、既に米国から保証が得ら  
れている。

2. アル・アイヤーム紙

- (1) 今月、訪米してオバマ大統領と会談する。同会談は三者会談ではなく、パレスチナと  
米国による二者会談である。
- (2) 同訪米の目的は、和平プロセスを前進させるためのものである。
- (3) 米国は、我々の立場が明確かつ着実に説得力のあることを完全に理解しているため、  
自分から訪米を要請したのではなく、和平プロセス及び交渉を前進させるために、自  
分が訪米の招待を受けたものである。米国は、和平プロセスを前に進めるために、我々  
を招待したのである。米国は、我々が大変協力的であることを理解するであろう。

3. エラカート PLO 交渉局長の発言 (アル・アイヤーム紙)

- (1) アッバース大統領は、和平プロセスを前進させるため、5月7日にラマッラでミッチェ  
ル米特使と会談する予定。
- (2) 8日、間接交渉について決定するため、PLO 執行委員会が開催される。アッバース大統  
領は、ミッチェル特使からパレスチナ指導部に提示された交渉に係る米国の提案及び  
意向を同委員会に提示する。